

## 令和2年度 指定管理者年度評価シート

### 1 公の施設の基本情報

施設名称	千葉市美術館	千葉市民ギャラリー・いなげ
条例上の設置目的	千葉市美術館条例（平成7年千葉市条例第34号）（抄） 第1条 本市は、美術に関する市民の知識及び教養の向上を図り、市民文化の発展に寄与するため、次のとおり千葉市美術館を設置する。	千葉市民ギャラリー・いなげ設置管理条例（昭和63年千葉市条例第40号）（抄） 第1条 本市は、市民の美術作品の発表及び鑑賞並びに制作のための施設として、次のとおり市民ギャラリーを設置する。
ビジョン (施設の目的・目指すべき方向性)	本市における美術振興の核となる施設として、博物館法（昭和26年法律第285号）に規定する美術館の役割・機能を着実に果たすとともに、文化面から千葉都心の集客を図り、市民サービスの向上に寄与する。	市民に身近な芸術活動の拠点として、幅広い世代の人々が親しく美術に触れ合う場となるとともに、歴史的建造物の保存・活用を推進する。
ミッション (施設の社会的使命や役割)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民と密接に結びついた市民参加型の美術館であること。</li> <li>・生涯学習の機能を兼ね備えた美術館であること。</li> <li>・首都圏の中で埋没することのない個性を備えた魅力ある美術館であること。</li> <li>・市民の文化・芸術の拠点として市の発展とともに成長する美術館であること。</li> <li>・現代から未来を志向し、国際的視野から市民の美意識を育てる質の高い美術館であること。</li> <li>・体験等を中心とした事業を実施し、美術に関する市民の創作活動等を支援すること。</li> </ul>	<p>【市民に身近な芸術活動の拠点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・美術作品の展示・制作の場</li> <li>・美術作品の制作指導等の実施</li> <li>・歴史的建造物の管理及び公開等による活用</li> </ul>
制度導入により見込まれる効果	指定管理者制度導入により、指定管理者が、市の求めるビジョン・ミッションや施設の特性を踏まえつつ、専門性や企画力などのノウハウを活用しながら、開館時間の延長、参加・体験型事業の充実、多言語化対応などの具体的な取組みを進めることにより、多くの市民が、各施設において、文化芸術を鑑賞、体験し、創造活動につなげることができるような環境が構築され、市民サービスが向上することを期待する。	
成果指標※	① 展覧会（常設展を含む）入場者数 ② 施設稼働率 ③ 体験・参加型事業の利用者数	① 利用者数（市民ギャラリー・いなげ） ② 利用者数（旧神谷伝兵衛稻毛別荘） ③ 施設稼働率
数値目標※	① 200,000人以上 ② 48%以上 ③ 15,000人以上	① 34,000人以上 ② 11,500人以上 ③ 55%以上
所管課	市民局生活文化スポーツ部文化振興課	

※ 成果指標及び数値目標は、選定時に設定したものである。

### 2 指定管理者の基本情報

指定管理者名	公益財団法人 千葉市教育振興財団	
構成団体 (共同事業体の場合)		
主たる事業所の所在地 (代表団体)	千葉県千葉市中央区弁天3丁目7番7号	
指定期間	令和2年4月1日～令和7年3月31日（5年）	
選定方法	非公募	
非公募理由	美術館の拡張整備（リニューアル）を契機とした新たな事業展開において、市との連携を図りながら、市民サービスの充実や質的な向上が求められる中、展覧会の実施や美術品の収集など事業実施までに中長期的な期間を要することが多く、十分な研究成果や豊富な経験に裏付けされた専門的知識を有する職員が継続的に携わる必要があることなど美術館としての施設特性を踏まえ、同一団体が継続して担うほうが、施設の管理は合理的かつ効果的であるため。	展覧会の企画や講習会の実施等に当たり美術品の展示に関する専門性を要するとともに、隣接する国登録有形文化財（旧神谷伝兵衛稻毛別荘）の管理に係る経験等も要求されるものであるため。
管理運営費の財源	指定管理料及び利用料金収入	

### 3 管理運営の成果・実績

#### (1) 成果指標に係る数値目標の達成状況

ア 千葉市美術館

成果指標	数値目標※	R 2 年度実績	達成率
展覧会（常設展を含む）入場者数	見直し前：200,000人以上 見直し後：156,000人以上	150,063人	96.2%
施設稼働率	48%以上	25.49%	53.1%
体験・参加型事業の利用者数	30,996人 (15,000人以上)	19,428人	62.7% (129.5%)

※数値目標は選定時に設定した数値であり、市設定の数値を上回る目標を指定管理者が設定している場合、市設定の数値は括弧書きで表している。展覧会入場者数の数値は、令和2年度事業計画書において、拡張整備（リニューアル）による休館（R2.4～R2.7）を見込んだことから、数値目標の見直しを行っている。

イ 千葉市民ギャラリー・いなげ

成果指標	数値目標※	R 2 年度実績	達成率
利用者数 (市民ギャラリー・いなげ)	34,000人以上	12,676	37.3%
利用者数 (旧神谷伝兵衛稻毛別荘)	11,500人以上	5,805	50.5%
施設稼働率	55%以上	35.9%	65.3%

※ 数値目標は選定時に設定した数値であり、市設定の数値を上回る目標を指定管理者が設定している場合、市設定の数値は括弧書きで表している。

#### (2) その他利用状況を示す指標

指 標	R 2 年度実績

#### 4 収支状況

##### (1) 必須業務収支状況

ア 収入

費 目		R 2年度	【参考】 R元年度	計画実績差異・要因分析		
				差異		主な要因
指定管理料	実績	546, 963	264, 854	実績-計画	△ 17, 487	展覧会内容の変更による
	計画	564, 450	264, 785	計画-提案	△ 53, 093	備品購入・修繕内容の精査による
	提案	617, 543	310, 792			
利用料金収入	実績	41, 617	57, 536	実績-計画	△ 34, 226	展覧会内容の変更による
	計画	75, 843	77, 062	計画-提案	0	
	提案	75, 843	64, 598			
その他収入	実績	17, 115	24, 772	実績-計画	△ 13, 913	物品売払収入の減
	計画	31, 028	30, 373	計画-提案	5, 222	閉館時の図録送料（購入者負担分）を予算化したため
	提案	25, 806	21, 200			
合計	実績	605, 695	347, 162	実績-計画	△ 65, 626	
	計画	671, 321	372, 220	計画-提案	△ 47, 871	
	提案	719, 192	396, 590			

イ 支出

費 目		R 2年度	【参考】 R元年度	計画実績差異・要因分析		
				差異		主な要因
人件費	実績	149, 361	136, 616	実績-計画	△ 4, 694	職員の育休があつたため
	計画	154, 055	145, 798	計画-提案	△ 7, 275	人事異動
	提案	161, 330	135, 137			
事務費	実績	106, 663	50, 714	実績-計画	△ 9, 373	備品の入札差益・光熱水費の減
	計画	116, 036	49, 674	計画-提案	△ 10, 713	什器購入・修繕内容の精査による
	提案	126, 749	66, 283			
管理費	実績	0	0	実績-計画	0	
	計画	0	0	計画-提案	0	
	提案	0	0			
委託費	実績	169, 992	9, 970	実績-計画	△ 3, 971	展覧会内容の変更による
	計画	173, 963	9, 873	計画-提案	△ 14, 252	管理委託費、展覧会委託費の精査による
	提案	188, 215	35, 573			
その他事業費	実績	150, 965	137, 148	実績-計画	△ 65, 277	展覧会内容の変更による
	計画	216, 242	155, 194	計画-提案	△ 15, 812	展覧会経費の精査による
	提案	232, 054	146, 226			
間接費	実績	9, 832	8, 738	実績-計画	△ 1, 193	
	計画	11, 025	11, 681	計画-提案	181	
	提案	10, 844	11, 681			
合計	実績	586, 813	343, 186	実績-計画	△ 84, 508	
	計画	671, 321	372, 220	計画-提案	△ 47, 871	
	提案	719, 192	394, 900			

##### 間接費の配賦基準・算定根拠

公益法人会計基準に則り 6 つに区分し、本部経費については、従事割合等の配賦基準により各会計に配賦計上。法人会計に配賦した費用から基本財産、特定資産の運用益等の収益を差し引いた差額を、法人会計以外の 5 つの会計へ配賦した額の割合で按分し、法人会計の財源として一般管理費に計上する。

(2) 自主事業収支状況

ア 収入

(単位：千円)

費 目		R 2 年度	【参考】 R 元年度
自主事業収入	実績	3, 052	1, 818
その他収入	実績	0	0
合計	実績	3, 052	1, 818

イ 支出

(単位：千円)

費 目		R 2 年度	【参考】 R 元年度
人件費	実績	631	445
事務費	実績	926	1, 339
管理費	実績	0	0
委託費	実績	107	150
使用料	実績	1	0
事業費	実績	635	454
利用料金	実績	25	108
その他事業費	実績	0	0
間接費	実績	119	121
合計	実績	2, 444	2, 617

間接費の配賦基準・算定根拠

--

(3) 収支状況

(単位：千円)

		R 2 年度	【参考】 R 元年度
必須業務	収入合計	605, 695	347, 162
	支出合計	586, 813	343, 186
	収 支	18, 882	3, 976
自主事業	収入合計	3, 052	1, 818
	支出合計	2, 444	2, 616
	収 支	608	△ 798
総収入		608, 747	348, 980
総支出		589, 257	345, 802
収 支		19, 490	3, 178
利益の還元額		0	0
利益還元の内容			

## 5 管理運営状況の評価

### (1) 管理運営による成果・実績（成果指標の目標達成状況）

ア 千葉市美術館

評価項目	市の評価	特記事項
展覧会入場者数	C	
施設稼働率	E	
体験・参加型事業の利用者数	B	

イ 千葉市民ギャラリー・いなげ

評価項目	市の評価	特記事項
利用者数（市民ギャラリー・いなげ）	E	
利用者数（旧神谷伝兵衛稻毛別荘）	E	
施設稼働率	D	

【評価の内容】※数値はいずれも原則であり、特殊な事情がある場合は当該事情も含め、総合的に判断する。

A : 成果指標が市設定の数値目標の120%以上（ただし、指定管理者設定の目標に達していない場合はBとする。）

B : 成果指標が市設定の数値目標の105%以上120%未満（ただし、指定管理者設定の目標に達していない場合はCとする。）

C : 成果指標が市設定の数値目標の85%以上105%未満

D : 成果指標が市設定の数値目標の60%以85%未満

E : 成果指標が市設定の数値目標の60%未満

### (2) 市の施設管理経費縮減への寄与

評価項目	市の評価	特記事項
市の指定管理料支出の削減	C	削減額の要因は、展覧会の変更に伴う指定管理料の減額によるものであり、事業内容としては計画どおりであるため。

【評価の内容】※数値はいずれも原則であり、特殊な事情がある場合は当該事情も含め、総合的に判断する。

A : 選定時の提案額から10%以上の削減

B : 選定時の提案額から5%以上10%未満の削減

C : 選定時の提案額と同額又は5%未満の削減

（D・E : 選定時の提案額を超える支出を行うことはないため、該当なし）

－：対象外（市の指定管理料支出がない。）

(3) 管理運営の履行状況

評価項目	自己評価	市の評価	特記事項
<b>1 市民の平等利用の確保・施設の適正管理</b>			
市民の平等利用の確保	C	C	
関係法令等の遵守			
リスク管理・緊急時対応			
<b>2 施設管理能力</b>			
<b>(1) 人的組織体制の充実</b>			
管理運営の執行体制	C	C	
必要な専門職員の配置			
従業員の能力向上			
<b>(2) 施設の維持管理業務</b>			
施設の保守管理	C	C	
設備・備品の管理・清掃・警備等			
<b>3 施設の効用の発揮</b>			
<b>(1) 幅広い施設利用の確保</b>			
開館時間・休館日	C	C	
利用料金設定・減免			
利用促進の方策			
<b>(2) 利用者サービスの充実</b>			
利用者への支援	C	C	
利用者意見聴取・自己モニタリング			
<b>(3) 施設における事業の実施</b>			
施設の事業の効果的な実施	C	C	
自主事業の効果的な実施			
<b>4 その他</b>			
市内業者の育成			
市内雇用への配慮	C	C	
障害者雇用の確保			
施設職員の雇用の安定化への配慮			

【評価の内容】

- A : 管理運営の基準・事業計画書等に定める水準を上回る、特に優れた管理運営が行われていた。
- B : 管理運営の基準・事業計画書等に定める水準を上回るなど、優れた管理運営が行われていた。
- C : 概ね管理運営の基準・事業計画書等に定める水準どおりに管理運営が行われていた。
- D : 一部、管理運営の基準・事業計画書等に定める水準を満たしておらず、改善の余地がある管理運営が行われていた。
- E : 管理運営の基準・事業計画書等に定める水準を満たしておらず、速やかな改善が求められる管理運営が行われていた。

(4) 市民局指定管理者選定評価委員会意見を踏まえた対応

意見の内容	意見対象年度	対応・改善の内容
美術館のリニューアルオープンに向けて、より一層活発な運営を期待する。	令和元年度	新設された諸室をワークショップ、イベント等を行い有効利用するとともに、リニューアルしたホームページ等で積極的に広報を行った。今年度はコロナ禍で活動が制限されたことで満足な結果が得られない部分もあったが、引き続き利用者のニーズを捉え積極的に活動していきたい。
美術館の友の会の会員数について、リピーターの確保のため、更なる周知に取り組まれたい。	令和元年度	期限の切れた会員にも展覧会の内容やスケジュール、美術館のイベントなどのチラシを送付し、リピーターの確保に努めている。
市民ギャラリー・いなげの講習会が大変盛況であることから、イベントの開催に今後も力を入れられたい。	令和元年度	コロナ禍により、中止をしたものもあったが、募集人員を減らして実施したり、オンラインを活用したりするなど工夫しながらイベントの充実を図った。
旧神谷伝兵衛稻毛別荘の周知を図り、市民ギャラリー・いなげの集客効果をさらに高められたい。	令和元年度	別荘を含めた地域紹介パンフレットの作成、ホームページの充実、外部メディア向け撮影場所の提供等、幅広く周知を図った。

市民ギャラリー・いなげについて、商店街や地域との連携をより一層図られたい。	令和元年度	地域紹介パンフレット（いなげ八景散策マップ）を地域の商店街に持参し置かせてもらい、近隣の小中学校には「いなげ八景水彩画コンクール」「夏のこども対象の行事」のチラシを児童生徒数分配布するなどして、地域との関係を深めた。
---------------------------------------	-------	--

## 6 利用者ニーズ・満足度等の把握

### (1) 指定管理者が行ったアンケート調査

#### ア 千葉市美術館

実施内容	調査方法	展覧会の会場にアンケート用紙・ボックスを設置し、来場者の意見等を収集した。
	回答者数	1,086件
	質問項目	年齢、性別、住所、交通手段、展覧会を知った媒体、来館回数、展覧会の感想、その他本施設に対する意見
結果	<p>ア 回答者の属性：</p> <p>年齢 (10歳未満 10%、10代 8%、20代 7%、30代 11%、40代 16%、50代 18%、60代 12%、70代 14%、80歳以上 2%、無回答 2%)</p> <p>性別 (男性 36%、女性 61%、無回答 3%)</p> <p>住所 (市内 37%、県内 30%、関東8%、都内 20%、その他 2%、無回答 3%)</p> <p>イ 交通手段：</p> <p>J R 千葉駅より徒歩 21%、J R 千葉駅よりバス 7%、J R 千葉駅よりタクシー 2%、京成千葉中央駅 10%、モノレール 6%、自家用車 30%、自転車 6%、その他 9%、無回答 9%</p> <p>ウ 展覧会を知った媒体（複数回答）：</p> <p>新聞 11%、雑誌・ミニコミ 1%、テレビ・ラジオ 6%、チラシ 19%、ポスター 7%、市政だより 5%、知り合いから 11%、友の会・美術館ニュース 3%、千葉市美術館ホームページ 16%、その他インターネットサイト 9%、館に来て 1%、千葉市美術館SNS 4%、その他 7%</p> <p>エ 来館回数：</p> <p>はじめて 40%、2～3回 20%、4～5回 12%、6回以上 24%、無回答 4%</p> <p>オ 感想：</p> <p>大変よかった・期待以上 58%、よかったです・期待どおり 31%、普通 4%、あまりよくなかった 1%、よくなかった・期待はずれ 2%、無回答 4%</p>	

#### イ 千葉市民ギャラリー・いなげ

実施内容	調査方法	ギャラリー棟・別荘にアンケート用紙と回収箱、ギャラリー棟に意見箱を用意し、来館者の意見を収集した。
	回答者数	1,167件
	質問項目	来館日、性別、年齢、住所、利用施設、申込・受付方法、施設の管理・清掃、受付・窓口の対応、気づいた点
結果	<p>ア 回答者の属性</p> <p>年齢 (10代 4%、20代 6%、30代 7%、40代 17%、50代 19%、60代 19%、70代 23%、80代以上 5%)</p> <p>性別 (男性 45%、女性 55%)</p> <p>住所 (中央区 9%、花見川区 8%、稲毛区 24%、若葉区 3%、緑区 2%、美浜区 20%、その他 34%、)</p> <p>イ 利用施設：ギャラリー棟 36%、別荘 64%</p> <p>ウ 申込・受付方法：今のままでよい 98%、改善してほしい 2%)</p> <p>エ 清掃状況</p> <p>ギャラリー棟 (良い 94%、普通 6%、良くない 0%)</p> <p>別荘 (良い 99%、普通 1%、良くない 0%)</p> <p>オ 窓口・受付対応</p> <p>ギャラリー棟 (良い 95%、普通 5%、良くない 0%)</p> <p>別荘 (良い 98%、普通 2%、良くない 0%)</p>	

### (2) 市・指定管理者に寄せられた主な意見・苦情と対応

#### ア 千葉市美術館

主な意見・苦情	指定管理者の対応
美術館のホームページに喫煙・禁煙の案内がない。 ホームページでの案内はできないものか。	当館は令和2年4月1日より敷地内全面禁煙を実施しており、意見を いただいすぐホームページでも敷地内全面禁煙の表示を行った。

## イ 千葉市民ギャラリー・いなげ

主な意見・苦情	指定管理者の対応
別荘 2 階の雨漏りが気になる。	千葉市に報告、協議を行った。

## 7 総括

### (1) 指定管理者による自己評価

総括評価	C	所見	【美術館】 本年度は7月のリニューアルオープンより年度を通してコロナ禍での運営となってしまい、様々な利用制限及びイベント、サークル活動等が中止となった影響で施設稼働率においては、数値目標及び前年度を大きく下回ってしまった。そんな中展覧会においては、展覧会内容の変更はあったものの、概ね数値目標を達成し、特に企画展「田中一村」展は大変好評で、目標を大きく上回る29,415人の入場者があった。 新型コロナウイルス感染拡大防止対策として入館時の手指消毒、検温、マスク着用の徹底及びアクリル板の設置、千葉市新型コロナウイルス追跡サービス利用の促進などを行うとともに、混雑時必要に応じて入場制限を行うなど徹底したコロナ対策を行ったうえで通年開館を実施した。
			【市民ギャラリー・いなげ】 本年度は施設稼働率、利用者数とも目標値を下回った。旧神谷伝兵衛稻毛別荘の耐震改修工事が完了し一般公開を行ったが全体的に伸びなかった。利用者及び来館者の約半数が60歳以上であるためコロナ禍の影響が大きかったと考えられる。事業については「千の葉の芸術祭」に関連する企画が令和3年度に延期され講習会は6回中4回を中止したが、企画展は予定の6回を実施した。「いなげ八景水彩画コンクール」は4回目を迎えて実に定着し出品数も増加した。

### (2) 市による評価

総括評価	C	所見	【美術館】 概ね計画通り、良好に管理運営が行われている。 新型コロナウイルスによる影響を受けながらも展覧会では企画展・常設展あわせて6本が数値目標を大幅に上回っており、これまでの経験と実績を存分に活かした、リニューアルに相応しい結果となったことは評価できる。新たに拡充された体験・交流ゾーンでも利用制限等に柔軟に対応しながら親子連れを中心とした新しい企画を実施しており評価できる。一方でワークショップルームや市民アトリエなどの貸出諸室については稼働率が低いことから、より一層の宣伝・広報活動により更なる利用促進に努められたい。 【市民ギャラリー・いなげ】 概ね計画通り、良好に管理運営が行われている。 オリンピックや稻毛あかり祭「夜灯(よとぼし)」など他のイベントと連動して開催する予定だった企画も含め、新型コロナウイルスにより中止・延期となった企画も多かった。そういう状況下でも、ギャラリー周辺の施設や商店街と連携し散策マップを作成したり、地域の小中学校の作品展を開催するなど可能な範囲で事業を実施した。別荘や庭園の手入れなども行き届いていることがアンケート結果から見て取れる。引き続き、良好な状態を維持されたい。

### 【評価の内容】

- A : 市が指定管理者に求める水準等を大きく上回る、特に優れた管理運営が行われていた。
- B : 市が指定管理者に求める水準等を上回る、優れた管理運営が行われていた。
- C : 概ね市が指定管理者に求める水準等に則した、良好な管理運営が行われていた。
- D : 管理運営の一部において市が指定管理者に求める水準等に達しておらず、改善の余地のある管理運営が行われていた。
- E : 管理運営全般において市が指定管理者に求める水準等に達しておらず、速やかな改善が求められる管理運営が行われていた。

### (3) 市民局指定管理者選定評価委員会の意見

- ア 市の作成した年度評価案の妥当性について  
市の作成した年度評価案の内容は、妥当であると判断される。
- イ 管理運営のサービス水準向上、業務効率化の方策、改善を要する点等において
- (ア) ジャボニスム展の事業収支計画が赤字とならないよう工夫されたい。
- (イ) ワークショップについて、実際に足を運んで参加するものと、オンラインを活用したアウトリーチ活動と、それぞれの位置づけを精査して企画されたい。
- (ウ) 学校等の鑑賞教育で、借上バスによる送迎は社会状況にもなじんでおり、評価できる。引き続き実施されたい。
- (エ) 指定管理者の財務状況については、計算書類等の資料に基づいた判断であることを前提とするが、財務状況は良好であり、特段の問題はみられないことから、倒産・撤退のリスクはないと判断される。